

【高度工学コース】

3.4 建築学専攻

建築系専攻では、5年型および4年型の連携プログラム高度工学コースを平成29年度以降に設置することを検討しています。建築系専攻において博士学位の取得を目指す諸君は、修士課程修了後に連携プログラム高度工学コース3年型にお進みください。

(1) 教育方針

① 専攻における研究・教育の必要性

建築学は人類の生活に関与する多様な学術分野を担っており、地球環境の永続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っている。高度な機能を有し、安全・安心を維持し、文化創造を推進するための多様な建築空間の実現が現代社会において求められている。

② 教育の目的

建築学における計画・構造・環境の各分野に関する高度な知識の修得に加え、研究を通じた教育や実践的教育を介して、高度で幅広い視野から自己の研究を位置づけて体系化するとともに、既成概念にとらわれず未踏の分野に挑戦する領域開拓者となり得る素地を形成させる。

③ 教育の到達目標

建築分野に関係して、研究企画・推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における強い責任感と高い倫理観を備え、基礎研究を重視して環境と調和のとれた科学技術の発展を先導し、創造的研究チームを組織して新しい研究分野を開拓しようとする意欲と実行力のある研究者を育成する。

(2) 修了に必要な単位

科目区分	単位数
	3年型
	博士後期課程
コア科目	0単位以上
Major 科目（基礎科目）	0単位以上
Minor 科目（発展科目）	0単位以上
ORT 科目	0単位以上
その他の科目	必要に応じて指導教員の指導・承認を得て履修
合計	10単位以上

【注意事項】

- 1) 課程を修了するためには、科目区分毎に指定される単位数を満たし、かつ合計単位数を満たす必要がある。

(3) 履修モデル

入学当初の履修ガイダンス時に資料に基づいて説明する。

(4) 科目標準配当表（建築学専攻（高度工学コース））

科目 コード	科目名	担当教員	毎週時数		単位	科目区分				履修指定
			前期	後期		コア 科目	基礎 科目	発展 科目	ORT 科目	3年型 博士
10Q021	先端建築学特論Ⅰ	計画系・環境系関係教員	2		2	○				○
10Q022	先端建築学特論Ⅱ	構造系関係教員		2	2	○				○
10Q005	建築設計・計画学セミナーⅠ	計画系関係教員	2		2				○	○
10Q006	建築設計・計画学セミナーⅡ	計画系関係教員		2	2				○	○
10Q017	建築設計・計画学セミナーⅢ	計画系関係教員	2		2				○	○
10Q018	建築設計・計画学セミナーⅣ	計画系関係教員		2	2				○	○
10Q008	建築構造学セミナーⅠ	構造系関係教員	2		2				○	○
10Q009	建築構造学セミナーⅡ	構造系関係教員		2	2				○	○
10Q015	建築構造学セミナーⅢ	構造系関係教員	2		2				○	○
10Q016	建築構造学セミナーⅣ	構造系関係教員		2	2				○	○
10Q011	建築環境工学セミナーⅠ	環境系関係教員	2		2				○	○
10Q012	建築環境工学セミナーⅡ	環境系関係教員		2	2				○	○
10Q013	建築環境工学セミナーⅢ	環境系関係教員	2		2				○	○
10Q014	建築環境工学セミナーⅣ	環境系関係教員		2	2				○	○
10i051	#現代科学技術の巨人セミナー「知のひらめき」(6Hコース)	(GL)田中・前田・松本・蘆田・関係教員	集中		0.5			○		○
10i052	#現代科学技術の巨人セミナー「知のひらめき」(12Hコース)	(GL)田中・前田・松本・蘆田・関係教員	集中		1			○		○
10i045	#◎実践的科学英語演習Ⅰ	(GL)西川・田中・松本・蘆田・前田	(2)		1			○		○
10i041	#◎科学技術者のためのプレゼンテーション演習	リントウルオト	(2)		1					○
10i042	#◎工学と経済(上級)	リントウルオト		2	2					
10i010	#工学研究科国際インターンシップ1	(GL)西川、関係教員	集中		1					○
10i011	#工学研究科国際インターンシップ2	(GL)西川、関係教員	集中		2					○
10i049	#◎エンジニアリングプロジェクトマネジメント	(GL)松本・田中・蘆田・前田・リントウルオト	2		2					
10i059	#◎エンジニアリングプロジェクトマネジメント演習	(GL)松本・田中・蘆田・前田・リントウルオト		(4)	2					
10i055	#現代科学技術特論(4回コース)	(GL)蘆田・松本・田中・前田・関係教員		2	0.5					
10i056	#現代科学技術特論(8回コース)	(GL)蘆田・松本・田中・前田・関係教員		2	1					
	研究論文(博士)								○	必修

1. 科目内容の詳細(シラバス)については、工学研究科ホームページ(URL:<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/syllabus-gs/>)を参照すること。
2. 上表に記載のない工学研究科共通科目については、履修登録時に指導教員の指導の下で専攻長の承認を得ることによって、4単位まで修了に必要な単位と認めることができる。日本語教育科目については修了に必要な単位としては認定しない。
3. 建築設計・計画学セミナーⅠとⅢ、ⅡとⅣは同一年度に履修できない。
4. 建築構造学セミナーⅠとⅢ、ⅡとⅣは同一年度に履修できない。
5. 建築環境工学セミナーⅠとⅢ、ⅡとⅣは同一年度に履修できない。
6. 科学技術者のためのプレゼンテーション演習、工学と経済(上級)、エンジニアリングプロジェクトマネジメント、エンジニアリングプロジェクトマネジメント演習、工学研究科国際インターンシップ1、工学研究科国際インターンシップ2は、修了に必要な単位としては認定しない。
7. 建築学専攻(修士課程)の科目標準配当表に記載されている「建築士受験資格における実務経験に該当する科目」は履修することができる。
8. 「現代科学技術の巨人セミナー「知のひらめき」」は、計4週の集中講義を実施する。「6Hコース」は、4週の講義のうち2週の講義を選択し受講すること。「12Hコース」は、4週の講義すべてを受講すること。科目登録時にどちらかを選択すること。また、平成30年度以降開講の「現代科学技術の巨人セミナー「知のひらめき」(6Hコース)・(12Hコース)」は、平成29年度までに開講した「現代科学技術の巨人セミナー「知のひらめき」」とは異なる科目として取り扱う。
9. 「現代科学技術特論」は、2つのトピックに対し、各4コマの講義を実施する。「4回コース」は、いずれか1つのトピックを選択し受講すること。「8回コース」は、2つのトピックを受講すること。科目登録時にどちらかを選択すること。また、平成30年度以降開講の「現代科学技術特論(4回コース)・(8回コース)」は、平成29年度までに開講した「現代科学技術特論」とは異なる科目として取り扱う。